

## 中小企業 DX 10 の心得

1. 面白そう、必要性があるならまずは、やってみる。ごちゃごちゃ考えない。  
触って見ないとわからないことがあるはず、走りながら課題解決する。  
スモールスタート、最初から欲張らない。但し始めたら、少しでも良いので結果を出す。  
できればその達成感をみんなで共有する。内部で自慢しない。自慢したければ外で行う。  
デジタル化、特にソフト面は、費用がかかるので、初めは、無料版でお試す。良ければ購入。ハードは、セキュリティや故障、世代等の相性があるため自社使用品以外の中古はお勧めしない。少し高スペックのものを購入すると長く使える傾向にあり。  
安物買いの銭失い。
2. 全部、自分でやろうとしない。一人情室にならないうように。但し人任せにしない。  
必ず、周りに面白がって手伝う人間がいるはず。業務だからとか変な使命感だけ前面にだしても、自分が理解できないものは、他人は乗ってこない。  
深みにはまってどうにもならなくなってから助けを呼んでも間に合わない。  
当然ながら手伝ってもらったら感謝の気持ちや評価を忘れずに。  
難しい知識は必要ないが、言葉の意味ぐらいは理解しておいた方がよい。  
自動車の運転ができなくても、常識的な交通ルールを知っているのと同じ。  
自身の最低限の勉強、仕組みの理解、完成したときのあるべき姿を想像すべき。
3. 情報に敏感になる。但し必ずしも最先端がハイセンス(デファクト)ではない。  
新聞、専門誌は当然ながら、(ちなみに日本経済新聞 40 年。日経パソコンは 30 年購読)  
展示会等に行って情報を拾ってくる。  
特に展示会では最新のものが発表されている。全てが生き残れるわけではない。  
二度三度同じメンバーに会えて、話がぶれていないようなら本物と思ってもよい。  
本当に使えるものならば 5 年後も会場にいるはず。
4. ベンダー(営業)の話は鵜呑みにしない。  
普通は良いことしか言わない。自分の千里眼を信じる。ネガティブな部分や不得意なことも話してもらえれば、むしろ信用できる。  
全体の費用、保守の確認も忘れずに。  
大手企業の手法を真似してもお金と時間がかかるだけ、中小向けの身の丈にあった DX を狙う。自分達のできることから実践する。大手企業が自社の手法を外販しているのを見かけるが、仕組みは良くできているが、価格設定が高すぎて中小では使えない。また全体のパッケージで販売していることが多い。

5. 電卓(そろばん)と紙の方が早くて確実な場合がある。但しそれではデータや手法が残らないことを意識する。紙に書いてまた再登録、清書するほど無駄な作業はない。記入ミスも発生する。毎日ルーチンで行っていることがあるなら何か仕組みを考える。  
また、データがないとそもそも仕事の改善ができないはず。
6. 利用できるものは全て使う。  
補助金、無料のセミナー、昨今は、公的な支援が熱い。中小企業むけに“デジタル化応援隊”なんて仕組みもあります。利用しない手はない。  
ここ数年は、特に千葉県の IoT に対する指導に感謝しています。
7. 楽しく実行する。  
ゲーム感覚で行うと、若年層に受けがいい。業務だと思いつまらない。  
費用体効果は重要だが、むしろ働く人たちの充実感や幸福度アップを図ることが必要。
8. 今時、パートもバイトもスマホ持ち  
PC だシステムだと言うからいつまでも触らないし、難しく考えてしまいがち、パートのおばちゃんでも SNS 普通に使ってます。  
彼女、彼らよっぽど業務システムより難しいことやっているといます。  
未だに自分はインスタも Line のお友達登録、上手にできません。というか写真のアップの仕方知りません。ちなみに弊社の会長(当時)65 才から PC の操作を覚え、77 才で勇退するまで CAD バリバリ使っていました。年齢やリテラシーはあまり関係ないかと。
9. セキュリティとバックアップに気を付けましょう。壁に耳ありです。  
ハードは、いつか壊れます。必ずデータのバックアップをしましょう。  
できればバックアップメディアは、社内のネットワークから切り離れたところに保管しましょう。全自動バックアップは、セキュリティ面、運用面双方でお勧めしません。
10. デジタルであってもアナログであっても、こつこつやるしかない。  
ただ、デジタル化したときのスピードや情報の共有化はアナログの比ではない。  
可能な限り、改善(トランスフォーム)しましょう。

令和 4 年 10 月 21 日

株式会社武井製作所  
代表取締役  
武井哲郎